

新首相誕生

# 「野田流」自民は様子見

## 県関係議員 民主、人事を評価

民主党の野田佳彦代表が衆参両院本会議で新首相に指名された30日、兵庫県関係の他党の国会議員は、未知数の政治手腕や政策方針に警戒感を抱きました。一方、同日決まった民主党役員人事には、県内の同党関係者から「手堅い配置」などと評価する声が上がった。

野田佳彦代表の挙区は「野田さんは派手さはないが、実直な雰囲気もある難敵」と警戒感をあらわにした。

与党の国民新党と統一

会派を組む新党日本代表の田中康夫衆院議員(兵庫8区)は「野田さんは安定感のある政治家だと思ってきた。連立合意に基づき、協力していく」と述べるにとどめた。

一方、民主党兵庫県連副代表の前島浩一(神戸市)は、野田氏の幹事長起用に「今回こそ挙党一致でいこう、という強い思いが表れている。小沢元代表にも物が言え、手堅い人事」と話した。同県連幹事長の藤井訓博(議

は「党内融和を最優先した人事。(野田氏は)政治手腕は申し分なく、ねじれの元凶の参院に強い影響力がある」と評価。

野田新首相が視野に入れているとする「大連立」の可能性に、野田議員は「大連立は無理だが、大連立は無理だし、すべきでない。政策合意がなければ野合になる」とする。同党の末松信介参院議員(兵庫選

区)は「党内融和を最優先した人事。(野田氏は)政治手腕は申し分なく、ねじれの元凶の参院に強い影響力がある」と評価。